鹿児島工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	韓国文化

科目基礎情報

科目番号	0015	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電気電子工学科	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	『これで話せる韓国語ＳＴＥＰ1』　入佐信宏・金孝珍　著、日帝社/適宜プリントを配布する		
担当教員	沈 成妍		

到達目標

１．韓国語の文字（ハングル）とその発音を正確に習得する。
２．自己紹介ができる。
３．プレゼント受け渡し時の会話ができる。
４．韓国人の文化的アイデンティティーである「儒教」を理解する。
　　出身地や家族について尋ねたり、答えたりすることができる。
５．打ち解けた話し言葉である「ヘヨ体」を用いて話すことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	標準的な到達レベルに加えて、以下のことができる。 日本語の「かな」をハングルで表記することができる。	1）韓国語の文字（ハングル）の仕組 みを理解できる。 2）ハングルの子音と母音を正確に覚 え、組み合わせることができる。 3）終声（パッチム）と連音化を理解 し、正しく発音することができる 。	韓国語の仕組みを理解し、韓国語の文字であるハングルの読み書きができない。
評価項目2	標準的な到達レベルに加えて、以下のことができる。 韓国人の名前を呼ぶときのエチケットなどを理解し、適切に会話で活用することができる。	１）助詞「～は＝～/」、「～です ＝～, /」、「～で すか？＝?, ?/?」 を理解できる。 2）１）を基に本文の自己紹介の会話を 理解し、自分の場合に置き換えて話 すことができる。	自己紹介をするために必要な基本的な文法及び会話を理解していない。また、自分の場合に置き換えて話すことができない。
評価項目3	標準的な到達レベルに加えて、以下のことができる。 指示詞を使って、その場にあるものについて、尋ねたり、答えたりすることができる。	1）指示詞 「この＝、その＝、あの＝」、　疑問詞「何＝」、接続詞「ところで＝」、　助詞「～ が＝～/」を理解できる。 2）プレゼントを渡す時、受け取る時の会話を理解し、韓国語で話すことができる。	プレゼントを渡す時、受け取る時に使われる指示詞及び疑問詞、助詞を理解していない。 またプレゼントを渡す時、受け取る時の会話について韓国語で話すことができない。
評価項目4	標準的な到達レベルに加えて、以下のことができる。 「儒教」を理解し、正しい敬語の使い方ができる。 韓国語で自分の家族や出身地について紹介することができる。	1）助詞「～と＝～」、疑問詞「どこ＝、誰＝」、接続詞「そして＝」を理解できる。 2）韓国人の文化的アイデンティティー「儒教」を理解し、日本人・日本文化について考えてみる。それを基に自国以外の文化の受け止め方や接し方について考えることができる。 3）韓国と日本の家族の呼び方の違いを理解できる。 ４）出身地について韓国語で、質問したり、答えたりすることができる。	韓国と日本の家族の呼び方の違いを理解し、適切に使うことができない。 また、家族や出身地などについて尋ねたり、答えたりするときに使われる文法や表現が理解できていない。
評価項目5	標準的な到達レベルに加えて、以下のことができる。 韓国で最も使われている「ヘヨ体」を正しく使って、応用会話ができる。	1）助詞「～を＝～/」、「～で（場所）＝～」、「～も＝～」を理解できる。 2）打ち解けた話し言葉である「ヘヨ体」を理解し、動詞の「ヘヨ体」を作ることができる。 3）「～で（場所）、～を、～（し）ます。」という文章を「ヘヨ体」使って表現ができる。	打ち解けた話し言葉である「ヘヨ体」を理解できていない。 また動詞の「ヘヨ体」を使った文章を表現できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	〔本科目の目標〕　韓国語の文字であるハングルの仕組みを理解し、基本的な文法及び会話を習得する。韓国語の会話を通して、その背景にある韓国の文化や価値観についての理解と関心を深める。
授業の進め方・方法	韓国語の文字（ハングル）とその発音をしっかりマスターし、基本的な会話を学ぶ。目で見て認識し、耳で聴いて発音を覚え、声に出して確認し、そして、手で書いてみるという感覚を十分に活用した進め方をしていく。視聴覚資料を用いて、たくさん聞いて、たくさん話す練習をする。ロールプレイの練習の時は、ペアを組んで練習することにより、教え合い、協力し合って学習できるようにする。
注意点	韓国語を理解することにとどまるのではなく、実際に使えるようになることを目標にしているので、授業に積極的に参加する姿勢が求められる。必要に応じて小テストを行い、授業の内容が十分に理解されているかを確認する。 なお、本科目は学修単位「講義Ⅱ」科目であるため、指示内容について200分程度の自学自習（予習・復習）が必要である。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	1.　韓国語とは 　ハングルの仕組み(母音)	□ 韓国語の定義とハングルの仕組みを理解する。 □　ハングルの母音を理解する。

		2週	2.　ハングル文字と発音(子音)	□ ハングルの子音(平音・激音・濃音)を理解する。
		3週	3.　日本語のハングル表記 　終声と連音化	□ 日本語の「かな」をハングルで表記することができる。 □ 終声（パッチム）と連音化を理解する。
		4週	4. 単語で覚えるハングル	□ 授業科目1～３についての確認 □　基本的な単語を通して、ハングルを身につける。
		5週	5. 第１課「私はイユジンです。」	□　助詞「～は＝～/」、 「～です＝～, /」、「～ですか？＝?, ?/?」を理解する。
		6週	6. 第１課「私はイユジンです。」（自己紹介）	□　第１課の文法と会話を理解し、自分の場合に置き換えて自己紹介ができる。
		7週	7. 第２課「これプレゼントです。」 8.中間試験	□ 指示詞「, , 」、 疑問詞「」、 接続詞「」、 助詞「～が＝～/」を理解する。 □　プレゼントの受け渡しの会話を習得する。
		8週	9. 第３課「どこの出身ですか。」	□　助詞「～と＝～」、疑問詞「」を理解する。 □　出身地について質問したり、答えたりすることができる。
	4thQ	9週	10. 第４課「この人は誰ですか。」	□ 疑問詞「」、接続詞「」を理解する。 □　韓国と日本の家族の呼び方の違いを理解する。
		10週	11. 韓国の儒教について	□　韓国人の文化的アイデンティティー「儒教」を理解する。
		11週	12. 第５課「ソウルに韓国人の友達がいます。」	□　存在詞、助詞「～に＝～」、否定する表現を理解する。
		12週	13. 第６課「私は図書館にいます。」	□　居場所を聞いたり、答えたりすることができる。 □　数詞を理解する。
		13週	14. 第７課「普通休みの日には何しますか。」	□ 韓国語の動詞「ヘヨ体」を理解する。
		14週	15. 第７課「普通休みの日には何しますか。」	□　動詞の「ヘヨ体」を作ることができる。 □　「～で（場所）、～を、　～（し）ます。」という表現ができる。
		15週	16.期末試験 17.答案返却	各試験において誤った部分を自分の課題として把握する。（非評価項目）
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	(-10)	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0